

熊大病院ニュース

第24号

Kumamoto University Hospital

熊本大学医学部附属病院 広報誌



特集1P1

乳がん・遺伝性乳がん
「乳がんまつわる
4文字英略語講座
『BRCA』と『HBOC』」

小児病棟ボランティアP2

「たんぽぽハウス」紹介
イベント紹介P2

特集2P3

荒木栄一教授(糖尿病・代謝・内分泌内科)
『日本医師会医学賞』受賞

診療科・部門紹介P4

* 歯科口腔外科
* ME機器センター

新任役職者紹介P5

小児科
脳神経外科
小児外科・移植外科

看護部だよりP6

専門看護師・認定看護師による
「がん看護外来」

総合案内裏表紙

ご自由にお取りください

2018年 冬号

熊本大学医学部附属病院

【理念】 本院は、患者本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

【基本方針】
・ 患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
・ 安全安心で質の高い医療サービスの提供
・ 優れた医療人の育成
・ 先進医療の開発と推進

【患者の権利】
・ 良質な医療を受ける権利
・ 十分な説明と情報提供を受ける権利
・ 自分の意思で医療を選ぶ権利
・ プライバシーや個人情報が保護される権利

【患者の責務】
・ 自分の健康状態について正確に伝える
・ 本院の規則を遵守する
・ 迷惑行為を行わない



病院敷地内全面禁煙のお知らせ

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学医学部附属病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場) および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。

看護師募集中

最先端の医療に携わってませんか?

育児休業復帰
支援プログラム
実施中です!

担当: 熊大病院 総務課 人事給与担当

☎ 096-373-5913



乳がんにつわる 4 文字英略語講座

「BRCA」と「HBOC」

ピンクリボンとは、乳がんの早期発見の重要性と乳がん検診の必要性を啓蒙するシンボルマークです。

【監修】 熊本大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科 指宿 睦子 特任准教授

乳がんの発症には、女性ホルモンや生活習慣、生まれつき受け継いだ遺伝子が関係しているとされます。成長し生活していく過程で様々な原因により遺伝子に変化が起こり、その細胞ががんになることもあります。これに対し、人間の体には遺伝子の傷を修理する仕組みがあり、乳腺や卵巣での遺伝子修復に関係している「BRCA」と呼ばれる分子があります。この「BRCA」の遺伝子に変化があつてうまく機能しない状態では、がんの発生を止めにくくなります。

「BRCA」遺伝子の変化は親から子へ1/2の確率で伝わるのがわかっており、遺伝の関与しない乳がんの6～12倍、卵巣がんには8～60倍かかりやすいとされる、「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)」という遺伝性疾患として特別なケアが必要になります。

乳がん患者さんの10～20人に1人はこの「HBOC」にあてはまります。本院では年間に約300人の乳がん患者さんの治療を行っていますので、そのうち毎年20人前後は「HBOC」として乳がんになられた可能性があります。また、そのような患者さんお一人に対し、変化した「BRCA」遺伝子を受け継いでいる血縁の方は複数いらっしゃるということになります。この遺伝子の変化を調べることによって、予防のための治療や早期発見のための検査を積極的に行うべきかどうか判定できます(図1)。

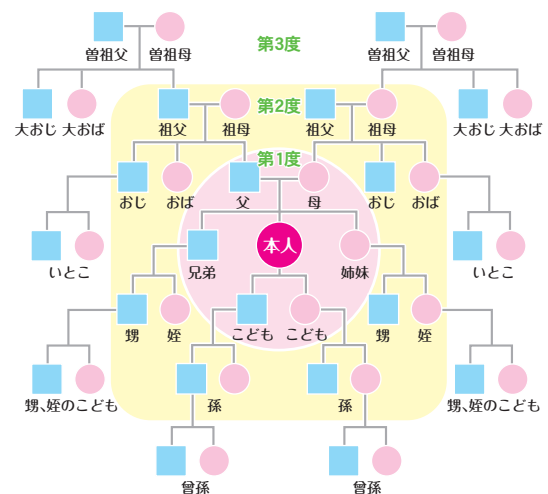
また、すでに乳がんや卵巣がんになられた患者さんには「BRCA」遺伝子変化の特徴を逆手にとつた分子標的治療薬の開発が進んでいます。

「HBOC」にかかわる「BRCA」遺伝子の変化は、ごく少量の採血をして遺伝子検査をすれば判明しますが、これはご本人にもご家族にも関わってくるとても大事な事柄です。本院では専門の医師が遺伝の可能性を判定し、経験豊富なカウンセラーとともに相談と意思決定の支援を行っています。

図1 遺伝性乳がん卵巣がん症候群チェック

※下記の項目にあてはまる方はご相談下さい。

- 乳がんにかかった**ご本人**が下記項目にあてはまる場合
 - ・若年の乳がん(40歳以下)
 - ・トリプルネガティブ乳がん
 - ・両側乳がん
 - ・卵巣がん
 - ・男性乳がん
- 図の中に、**50歳以下**で乳がん・卵巣がん・膵がんを発症した血縁者が**2人以上**いる場合



がん相談支援センター・家族性腫瘍相談チーム

お問い合わせ ☎096-373-5676

受付時間/月～金 8:30～17:15 (祝祭日を除く)

たんぽぽハウス紹介

「たんぽぽハウス」は平成7年、熊本大学医学部附属病院小児病棟に入院している子どもに付き添う家族のための宿泊施設として、九州で初めて誕生しました。

難病によって入退院を繰り返したり、手術などで長期療養しなければならない子どものために遠方から付き添っている家族が低料金で病院近くに滞在できる施設です。

室内には、寝具、テレビ、調理器具、冷蔵庫や電子レンジなどの設備を準備しており、県内はもちろん県外から入院で付き添う家族にも気軽に利用できるようになっています。

入院する子どもやその家族の精神的、経済的負担は、とても大きなものです。低料金で安心してくつろげる場所が病院の近くにあれば、家族の負担は軽減できます。たんぽぽハウスはそんな子どもたちや家族をサポートするために、現在ボランティアによって運営されています。



【1号館】 1泊(お一人)1,000円 1R(6畳洋室) 徒歩約7分
設備:寝具・テレビ・調理器具・冷蔵庫・電子レンジ・炊飯器など



【2号館】 1泊(お一人)1,500円 1LDK(8畳LDK+4畳洋室) 徒歩約7分
設備:寝具・テレビ・調理器具・冷蔵庫・電子レンジ・炊飯器・洗濯機など

お問合せ「たんぽぽハウス」 ☎080-2941-7788

※宿泊のお申し込みは 【1号館】小児外科病棟師長 【2号館】小児科病棟師長 までお願いします。

イベント紹介

一般財団法人 恵和会の助成により開催されている院内のイベント等をご紹介します。



ハロウィンイベントを 小児病棟にて開催

2017年10月31日(火)西・東病棟8階でハロウィンイベントが開催されました。入院中の子どもたちが集まったプレイルームではハロウィンの飾り付けがされ、楽しいハロウィンとなりました。

クリスマス イルミネーション点灯式

2017年11月1日(水)毎年恒例クリスマスイルミネーション点灯式を行いました。サンタの格好をした代表の子どもたちが点灯スイッチを押すと、イルミネーションが点灯し大きな歓声と拍手が上がりました。



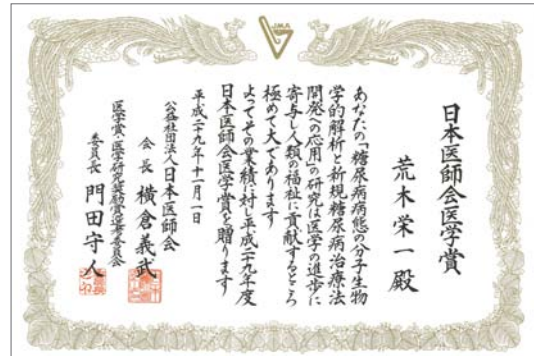
荒木栄一教授(糖尿病・代謝・内分泌内科) 「日本医師会医学賞」を受賞

【監修】熊本大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 荒木 栄一 教授

本院糖尿病・代謝・内分泌内科の荒木栄一教授が、2017年度「日本医師会医学賞」を受賞しました。

同賞は毎年、臨床医学・基礎医学・社会医学の各分野で業績があった3名に授与されます。荒木教授は糖尿病の成因や病態の分子生物学的解析に世界に先駆けて取り組み、インスリン受容体やその主要基質であるIRS-1の機能および発現調節機構の解明に成功しました。また熱を加えると細胞内で増える特殊なタンパク質が、糖尿病やメタボリックシンドロームを改善することを証明。

このような糖尿病の病態解析や新たな治療法の開発などが評価され、今回の受賞となりました。



【写真】日本医師会医学賞の賞状

『日本医師会医学賞受賞にあたって』

平成29年11月1日、東京の日本医師会館において開催された日本医師会医学賞の授賞式に出席し、受賞記念講演を行なって参りました。

日本医師会医学賞は昭和36年から始まった賞で、日本医師会会員で医学上重要な業績をあげたものに授与され、熊本大学からは6人目の受賞となります。

受賞タイトルは『糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用』で、熊本大学代謝内科学教室において、血糖値を下げるような種々のインスリン作用がどのようにして細胞内で伝達されるか等の糖尿病の成因に関する詳細な研究を重ね、さらに熊本大学薬学部の甲斐広文教授との共同研究で糖尿病の新規治療法を開発してきたことが評価されたものです。

今後も糖尿病が何故発症するのかを明らかにする事で、糖尿病の効率的な予防法や新しい治療法の開発を続け、糖尿病で苦しむ患者様のお役に立てるようにしたいと考えています。



荒木 栄一 教授

1983年熊本大学医学部卒。米ハーバード大医学部研究員などを経て2000年から熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学教授。

歯科口腔外科



▲中山秀樹教授

私たち歯科口腔外科は、口の中や顎の骨とその周囲にみられる様々な疾患しっかんに対する治療を行っています。代表的な疾患としては、顎の変形によって噛み合わせの異常を生じる顎変形症がくへんけいししょう、顎関節疾患がくかんせつ、唾液腺疾患だえきせん、顎骨内の腫瘍がっこつしゅよう、そして口腔がんなどが挙げられます。中でも、“口腔がん”

に対する治療を多く行っています。口腔がんの治療としては、手術を中心に放射線療法、化学療法、免疫療法などを患者様の状況に応じて行っています。

研究面では、口腔がんの治療を困難にするがんの特徴についての基礎的な研究や、口腔がん患者様の術後再発を予防するための免疫療法（ペプチドワクチン療法）の臨床試験を行っています。今後は共同研究や研究の国際化を推し進め、“口腔と全身をつなぐ”新たな研究テーマにも目を向けたいと考えています。

やる気に満ちた総勢約50名のメンバーが最新の知識と技術の習得に努め、日々研鑽を積んでいます。患者様のために、熊本県の歯科医療を支えていきたいと思っています。

ME機器センター



▲ME機器センター室

当センターは「医療機器の効率的利用を促進するとともに専門的な保守管理を実施し、もって医療の安全性および質の向上を図る」ことを目的に平成19年1月に設置されました。10年を迎えた現在、センタースタッフは23名です。

活動の中心となる臨床工学技士20名は手術室

業務や循環器業務、血液浄化業務における治療や検査に関わる臨床技術提供を行っています。医療機器保守管理業務では様々な用途の医療機器約4,500台を中央化しています。

医療機器は購入時にセンターで登録され、用途別に分けて1患者様ごとに貸し出しから使用後の返却という手順を守っています。返却後の医療機器はきれいに清拭した後、点検を行って次の貸し出しに備えています。

また、患者様が安心して治療・検査が受けられるように365日24時間体制で院内に臨床工学技士が常駐しています。

センタースタッフは大学病院という高度・先進医療に関わる医療機器の安全使用を願い、日夜努力しています。



小児科 教授

中村 公俊

この度、平成29年9月1日付で小児科教授を拝命いたしました。

熊本で生まれ育ち、母校で責任ある立場に就かせていただいたことは大変光栄に存じます。大学の使命である診療、研究、教育に全力で取り組み、新しい小児科学を担う人材を一人でも多く育てたいと考えています。そのためには、熊本の小児医療における関連施設との役割分担が重要であると認識しています。

小児科が対応する幅広い領域に対し

て、それぞれの施設が得意な専門分野を持ち、開業医とも連携して小児医療に取り組んでいます。熊本地震後の復興においても、新生児医療、地域医療、循環器医療など多くの課題を抱えながら、熊本県内外の施設との連携を密に取り組んでいます。

また、多彩で実際的な教育プログラムによって、新しい時代の小児科医の育成を行っています。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



脳神経外科 教授

武笠 晃丈

平成29年9月より新たに脳神経外科の責任者として着任いたしました。

私は医師になって以来、脳卒中、神経救急など脳神経外科の様々な領域について研鑽を積みましたが、ここ最近は特に脳腫瘍を専門として手術や化学療法、新規治療法開発のための研究などに精進して参りました。

本院は県内のほとんどの悪性脳腫瘍の患者さんが紹介来院しており、スタッフの経験や設備なども大変に充実しているため、これをさらに発展させるよう励みたいと思います。また治療困難な脳

血管障害、難治性てんかん、小児脳疾患に対する手術、脳腫瘍の経鼻内視鏡を用いた手術や脳深部刺激療法などの機能神経外科手術といった、一般病院の脳神経外科では対応困難な治療を必要としている多くの患者さんを受け入れ、各分野のエキスパートとともに、まさに県内脳神経外科の最後の砦となるべく最先端の診療活動を行っております。

私自身は東京育ちですが、母の故郷であります九州の地域医療にぜひとも貢献したいと思っております。皆様どうぞ宜しくお願いいたします。



小児外科・移植外科 教授

日比 泰造

我々は小児外科と、成人・小児の肝移植を主体とした移植外科の両翼を担う世界でもまれな診療科です。初代教授の世良好史先生は小児の肝・胆道疾患と悪性腫瘍の治療を強力に推進する中で、胆道閉鎖症の男の子をオーストラリアに渡航させ生体肝移植の世界初の成功に導かれました。第二代教授の猪股裕紀洋先生は通算肝移植500例超、国内最多のドミノ移植を誇る日本屈指の移植施設に育て上げました。

子どもの先天奇形を治すことと、臓器不全に陥った肝臓や小腸を他者の臓

器で置換(移植)することは、「機能再建」の観点から理念は共通すると考えます。これまで手がけてきた成人・小児の肝・小腸・多臓器移植と、肝胆膵領域のがんの手術経験を生かし、さらなる発展を目指します。

患者さんを生涯にわたって診る我々は、ひとりの人間として患者さん・ご家族と向き合い、外科医・科学者として生命の真理を探究することを信条としています。我々自身が生きる喜びを胸に抱き、めいっぱい楽しくいい仕事ができるように精進してまいります。



専門看護師・認定看護師による「がん看護外来」

本院では、平成27年4月から外来にて、専門的な知識、技術を持つがん看護専門看護師・がん看護分野の認定看護師が患者様の相談を行っており、平成28年1月からは外来予約枠の体制を整えて「がん看護外来」として本格運用を開始しております。

がん看護外来では、がん治療や療養に伴う身体症状の緩和や対処、お気持ちのつらさや不安に対して、個室での面談という方法で、お話を伺いながら支援をしています。「がんと診断され、今後のことを考えて不安になった」「治療中の副作用や具体的な対応について聞きたい」「痛みが辛いので、どのように対応したらいいかわからない」「誰かにこの気持ちを聞いてほしい」等、多岐にわたる相談に対し、少しでも不安な気持ちや心配なことが緩和されるように一緒に考え、対応させて頂いています。



【写真】 個室での面談の様子

平成28年度は延べ731回、今年度は11月までに延べ408回の利用がありました。がん看護外来を利用された方からは、「話を聞いてもらって気持ちが落ち着いた」「副作用への具体的な対応を一緒に考えてもらったので安心できる」「主治医には聞きづらいこともアドバイスしてもらったので助かった」といった感想も頂いております。

今後も患者様やご家族の立場に立ち、身体症状やお気持ちのサポート、治療や意思決定に関する支援をさらに充実させるべく取り組みを続けていきたいと思っております。

がん看護外来は原則的に予約制となります(図1)。詳しくは、パンフレットやホームページ※をご覧ください。

図1 「がん看護外来」ご利用について



【対象となる方】 本院に通院されている患者様及びそのご家族
【実施日時】 平日9:00～16:00(祝祭日を除く)※完全予約制
【場 所】 外来診察室もしくは面談室(場所はあらかじめお知らせいたします)

がんセンター(緩和ケアセンター)
お問い合わせ ☎096-373-5637
受付時間/月～金 8:30～17:15 (祝祭日を除く)

*パンフレットは、総合案内、各外来受付にもご用意しております。

※熊本大学医学部附属病院 緩和ケアセンター(HOME) > 患者様・ご家族の方へ > 緩和ケアをご希望の方は? > がん看護外来
http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/palliativecare/patients/applicant.html#kanwa_gairai

総合案内

- ① 受付時間 初診 8:30~11:00 / 再診 8:30 (再来受付機 8:15)~17:15 ※再診受付開始は、当日最初の診察・検査の予約時間の1時間前からです。
- ② 予約受付時間 8:30 ~ 17:15
- ③ 診療時間 8:30 ~ 17:15
- ④ 休診日 土曜、日曜、祝日、振替休日および年末年始 (12月29日 ~ 1月3日)
- ⑤ 診察日 ◎印(外来診療日参照)の日は初診も再診も行なっております。
- ⑥ 通常の診療以外に次の相談、検診を行なっております。
 - 禁煙外来 (呼吸器内科)
 - セカンドオピニオン (全診療科)
 - 乳がん検診 (乳腺・内分泌外科) ※現在休止中
 - 検査カフェ (中央検査部)
 - 脳ドック (脳神経外科)
 - 検査知外来 (中央検査部)
 - 不妊相談 (産科)

外来診療日

※2018.01.01 現在

- 診療日一覧 (初診・再診=◎、初診=初、再診=再、特殊再診=特再、不妊外来=不外、不妊相談・生殖医療カウンセリング=不生、休診日=休)
- 脳神経外科の初診は紹介状が必要です。
- 全診療科完全予約制です。再診受付開始は、当日最初の診察・検査の予約時間の1時間前からです。

		診療科名	月	火	水	木	金	
外来診療棟	1階	A 循環器内科	◎	◎	◎	◎	◎	
		心臓血管外科	休	◎	休	◎	休	
		総合診療科	◎	◎	◎	◎	◎	
	B	神経内科	初	◎	◎	◎	◎	
		整形外科	休	◎	休	◎	◎	
		脳神経外科	◎	休	◎	休	◎	
		麻酔科・緩和ケア	◎	休	◎	再	◎	
	C	小児外科・移植外科	◎	休	◎	◎	◎	
		小児科	◎	◎	◎	◎	◎	
	2階	D	糖尿病・代謝・内分泌内科	◎	◎	◎	◎	◎
			乳腺・内分泌外科	◎	◎	◎	◎	◎
			病理診断科	休	休	休	休	◎
		E	血液内科	◎	特再	◎	◎	◎
			膠原病内科	◎	休	再	休	◎
腎臓内科			◎	◎	◎	◎	◎	
F		呼吸器内科	◎	◎	◎	休	◎	
		消化器内科	◎	再	◎	◎	◎	
		呼吸器外科	休	◎	休	◎	◎	
		消化器外科	◎	◎	◎	◎	◎	
G		皮膚科	◎	再	◎	◎	◎	
		形成・再建科	休	初	◎	◎	休	
3階	H 歯科口腔外科	◎	◎	◎	◎	◎		
	I 眼科	◎	◎	休	◎	休		
	J 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎	休	◎	休	◎		
	K 婦人科	産科	◎	不外	◎	不外	◎	
		産科	◎	不生	◎	再	◎	
	L	泌尿器科	休	◎	休	◎	◎	
画像診断・治療科		◎	休	◎	休	◎		
4	M 神経精神科	休	◎	◎	◎	◎		
中央診療棟	B1階	放射線治療科	◎	◎	◎	◎	◎	
	2階	リハビリテーション科	休	◎	休	◎	◎	

熊本病院は高度医療を提供する「特定機能病院」として厚生労働省から認証を受けています。地域医療機関との分業を行なうため、原則としてかかりつけ医(他の医療機関)の紹介状が必要です。円滑な診療のために紹介状をご持参ください。紹介状がない場合でも受診できますが、初診の際に「保険外併用療養費(選定療養)」として5,400円(自費、平成27年3月現在)をご負担いただきます。

※予約について、お尋ねになりたい場合は、下記にご連絡ください。

外来予約センター TEL 096-373-5973

院内案内



病棟案内

【西病棟】	【東病棟】
耳鼻咽喉科・頭頸部外科、血液内科、膠原病内科	12F 院内学級、多目的室、患者図書室
血液内科、膠原病内科	11F 呼吸器内科、呼吸器外科、感染症病棟
泌尿器科、皮膚科・形成再建科	10F 歯科口腔外科、泌尿器科
腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、画像診断・治療科、放射線治療科、呼吸器内科	9F 眼科、循環器内科、糖尿病病棟
小児科、総合周産期母子医療センター (NICU, GCU)	8F 小児外科・移植外科、小児科、緩和ケア病棟
総合周産期母子医療センター(産科、MFICU)	7F 婦人科、乳腺・内分泌外科
ICU、血液浄化療法部	6F 心臓血管外科、HCU、呼吸器外科
脳神経外科、神経内科、SCU	5F 循環器内科、CCU、心臓血管外科
消化器外科、神経内科	4F 消化器外科
R1	3F 消化器内科
神経精神科	2F 整形外科、救急・総合診療部
栄養相談室、防災センター	1F 薬剤部、売店、美容室



交通案内

- 『熊本駅』からバスに乗り、『大学病院前』下車
JR熊本駅 所要時間10分 → 熊本病院
- 『交通センター』からバスに乗り、『大学病院前』下車
交通センター 所要時間10分 → 熊本病院
- 『阿蘇くまもと空港』からリムジンバスに乗り、『交通センター』下車
交通センター』からバスに乗り、『大学病院前』下車 所要時間 40分
- 九州自動車道 熊本インター出口
 国道57号線を熊本駅方面(産業道路)へ右折 所要時間 20分

熊本大学医学部附属病院

〒860-8556 熊本中央区本荘1丁目1番1号 TEL (096) 344-2111(代)
 http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/ FAX (096) 373-5906